

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、徳・智・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。一方、受け身の生徒も増えつつあるため、主体的に学ぶ生徒を育てる体制を引き続き整えていくことが必要である。また、新学習指導要領やGIGAスクール構想、18才成人など学校教育を取り巻く新しい動きに対応するため、校内の新たな体制作りと共に、コロナ禍における安全で効果的な学習指導の研究に鋭意取り組んでいる。
(3) 重点目標	1 授業第一主義とICTの活用(学習指導) 2 豊かな人間性と社会性の育成(生徒指導) 3 キャリア教育の推進(進路指導) 4 スクール・ミッションの策定とスクール・ポリシーの公表(弘高の社会的使命)
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載する。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校整理番号	7
学校名	青森県立弘前高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和5年1月31日(火)
学校関係者評価実施日	令和5年2月6日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 5名
〔 内訳 ・有識者同窓生 2名 ・有識者教育関係2名 ・元PTA役員 1名 〕

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	授業第一主義とICTの活用(学習指導)	ア 学習習慣の確立により基礎基本を定着させた上で、ICTを活用して「個別最適な学び」を推進する。 イ 絶えざる研修と教材研究により「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践に取り組み、論理的思考力・応用力を育成する。	生徒の授業完全理解と自学の姿勢を育てるため、教科担任による指導の工夫と働きかけ、ホームルーム担任による個人面談を行うとともに、一人一台端末を活用した指導の研究と実践を重ねて生徒の「個別最適な学び」を推進した。研究授業、互見授業、オンライン研修受講、重点校事業への参加を通して教員の授業力を高め、ほとんどの教員がICT、アクティブ・ラーニングを導入した授業を実践して生徒の論理的思考力・応用力の育成を図った。	B	タブレット端末利用については、教員全体が機器等の使い方を理解していることが大事なので、得意な教員にはどんどん活用を勧め、苦手な教員に対しては最低限の活用を促してリテラシーの底上げを行うという方針は首肯できるものである。	授業へのICTの導入については個々の教員の努力により一定の成果があったものの、次年度ICTを用いた効果的で個別最適な学習をより一層推進するために、教員に対しタブレット端末の利用方法についての研修を実施するとともに、タブレット端末を用いた授業の実施及び効果的な利用法の研究に取り組む。
2	豊かな人間性と社会性の育成(生徒指導)	ア 探究的な学習、体験活動及び部活動等における多様な他者との「協働的な学び」を充実させ、逞しい心と体そして自主独立の精神を培う。 イ 災害、事件、事故、感染症等に際し、他者の生命・安全を尊重する態度と自分自身を守る能力を育成し、学校安全を推進する。	総合的な探究の時間における課題への取組み、また県重点事業「あおり創造学」プロジェクトへの取組み等、さらに弘高ねぶた運行、弘高祭開催、修学旅行実施、部活動等、コロナ禍における制約の多い中でも「協働的な学び」の機会を可能な限り設定して生徒の心身の育成に取り組んだ。また、感染症拡大防止の取組みにより、他者及び自身の健康・安全を守る意識、能力が育成された。	B	生徒たちは少ない活動時間の中で、工夫して本当によく頑張っていると思う。また、コロナ禍で様々なことができず、思い出が無いまま高校生活を終えて卒業していく中、今年度ねぶた運行を行えたことは本当に良かったと思う。	外部指導者による部活動指導の拡大や、弘高ねぶたの安全な運行等のために、保護者及び地域の方々の協力を得て、「社会に開かれた教育課程」を一層推進する。また、次年度も「協働的な学び」の機会を可能な限り設定して生徒の心身の育成に取り組んでいく。
3	キャリア教育の推進(進路指導)	自分の能力と資質を生かせる大学学部を研究して主体的に進路を選択し、その実現に向けて、セルフ・リーダーシップにより自らを導く能力と態度を育成する。	総合的な探究の時間における課題研究や職業人講話等、自己の適性と将来の進路について深く考える機会を設けることで、生徒は自ら設定した課題に主体的に取り組み、自らの進路を自身で決め、その実現に向かう能力を育んだ。	B	生徒の学習の悩みに対応し、成績下位生徒のための指導をしてほしい。また、東大、京大といった最難関大学志望生徒を含め、生徒の志望を尊重した指導を行ってほしい。ネット出願等、大学への出願様式が多様化している中、卒業後に出願する過年度生のことも視野に入れたきめ細かい指導を行ってほしい。	生徒の志望、主体性を尊重した進路指導は今後も継続していく。多様化する入試に対応するため最新の入試情報収集と還元に努めるとともに、生徒自身が主体的に自身の進路実現に向かって諸課題を乗り越えていく能力を培うために、総合的な探究の時間での学びを深化させる必要がある。
4	スクール・ミッションの策定とスクール・ポリシーの公表(弘高の社会的使命)	ア 育成を目指す資質・能力の方針(グレイエーション・ポリシー)を公表する。 イ 教育課程の編成方針及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を公表する。 ウ 入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を公表する。	校内検討会議での検討を経てスクール・ミッション案を策定し、今年度12月に県教育委員会から決定の通知を受けた。これを受けて、校内検討会議によりグレイエーション・ポリシー案、カリキュラム・ポリシー案、アドミッション・ポリシー案を策定した。	A	先生方はスクラムを組んで本当によくやってくれている。学校が様々変わってきている中で子どもたちの個性を生かしながら、良い方向へ導いていく校風ができつつある。「とがった弘高生」を育ててほしい。	スクール・ミッションを策定し、グレイエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定した。次年度当初に公表する。

(11) 総括	学校教育を取り巻く新たな状況に対応しながら、学校教育目標達成のための重点目標に沿った教育活動を計画的に実践し、本校が担う使命と役割を果たすことができた。次年度以降も「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す」主体的に学ぶ生徒を育成するため、教員の指導力向上、教育環境の充実、地域や家庭、諸関係機関との連携を一層充実させ、これまで以上に学校が組織として機能する体制を整えていく。今年度の評価結果を踏まえた具体的な改善に取り組み、重点目標の達成を図りたい。
---------	--